

平成29年度区外施設定期監査の結果に関する報告

第1 監査の概要

1 監査実施日

平成29年7月10日（月）

2 監査の対象施設

目黒区立八ヶ岳林間学園

3 監査対象部局

教育委員会

4 監査の主眼点

- (1) 施設の管理運営は適切に行われているか。
- (2) 財産・物品の管理は適切に行われているか。

5 監査の方法

目黒区立八ヶ岳林間学園において、監査委員による説明聴取等の方法により実施した。

第2 監査の結果

1 指摘事項

監査の結果、次のような改善を要する事項が見受けられたので指摘する。

備品の管理について、施設維持管理委託契約の仕様書では、「学校運営課が提供する備品リストにおける備品管理を行う。」となっているが、備品リストが学園内の場所ごとに区分されていないため実地棚卸を行っていなかった。

2 意見・要望事項

自然宿泊体験教室事業及び一般利用等について、改善・見直しに向けて検討すべき事項が見受けられたので、次のとおり意見・要望を述べる。

(1) 自然宿泊体験教室事業について

29年6月に策定された区有施設見直し計画の第4章「用途別施設見直しの取組」の「17その他学校関係施設」においては、「施設のあり方の見直し」として「八ヶ岳林間学園・興津自然学園の利用状況を踏まえ、両施設で実施している区立小学校、中学校の自然宿泊体験教室事業について、民間活力の活用を含めて総合的に検討します。」とされているところである。施設の年間利用状況についてみると、八ヶ岳林間学園では、26年度36.7%、27年度30.0%、28年度26.0%であり、28年度は前年度と比較し4ポイント減となるなど、近年、利用率は低下傾向にある。また、興津自然学園では、26年度29.1%、27年度30.0%、28年度29.0%であり、両施設とも30%程度の利用

率が続いている。

そこで、施設の低い利用状況が続いていることや他区の類似施設の設置状況（特別区の統計（28年度版）では、高原学園（林間学園等）の設置区は本区を含め19区、臨海学園の設置区は本区を含め4区、両施設を含め2施設を設置している区は、本区を含め19区中7区である。林間学園1施設平均収容定員266人（目黒区246人）、臨海学園220人（目黒区190人）となっている。）、維持管理経費の負担状況、本区の児童・生徒数規模、財政状況等を踏まえ、これまでの実績の検証・評価、課題の整理を行い、2施設体制の見直しについて、中長期的な視野で総合的に検討されたい。

（2）一般利用について

一般利用については、26年度は、5月7日から27年3月8日まで延べ168人、27年度は、4月4日から28年2月11日まで延べ190人、28年度は7月16日から10月2日まで延べ181人と、23年度396人の約半数の利用状況となっている。特に、28年度においては、冬季の一般利用がない状況であった。

そこで、上記（1）の自然宿泊体験教室事業の検討と合わせて、利用実態やコスト等について検証・評価を行い、一般利用については、冬季の利用制限について検討されたい。

また、学園内には体育館もあることから、区立学校等及び区内団体等が利用しないときに、区外の団体等の研修等での利用に関し、目黒区立林間学園条例第4条（利用の範囲）第2項の規定に基づく一般利用の利用範囲に係る条例・規則上の取扱いについて、維持管理コスト等を含め検討されたい。

（3）施設管理について

ア 外部への避難口の表示を見やすいように掲示されたい。

イ 前回の25年度の監査実施以降、26年度に照明LED化工事、27年度に浄化槽ばっき用送風機機能整備工事、天井非構造部材落下防止対策工事が実施されるなど、施設管理の見直し・改善に努めてきたことは評価できるものである。引き続き施設の適切な維持管理に努められたい。

以 上